



同じ中学校に通う同級生、**戸山ミナちゃん**と**平山ジローくん**。米子の歴史や文化（カルチャー）のことにくわしい**かるちゃん**といっしょに米子城の魅力や謎に迫ります。今年もよろしくお祈りします。

かるちゃん：一年の計は元旦にあり。ミナちゃん、ジローくん、今年の抱負は？

ミナちゃん：今年も米子城や城下町のことを、いろいろと深く調べてみたいわ。

ジローくん：ぼくはどンドン城山に登って、米子城の新しい魅力を見つけたいな。

かるちゃん：今年も米子城イベントが楽しみだね。そういえば先日、図書館で君たちの米子城の写真を見たよ。すごくきれいに撮れてたね。

ミナちゃん：「米子城わくわく遊日和写真展」ね。いい写真がいっぱいあったわ。

ジローくん：ぼくは自信なかったけど、パネル写真にしたら案外いい感じだった。

かるちゃん：つまり米子城は、被写体としても魅力満点ということなんだ。ところで、二人は11月19日の「**城下町科研・米子研究集会**」にも参加したんだよね。少し専門的な話だったと思うけど、どうだったかな？

ミナちゃん：私は米子城の成立の背景に迫る話で、山陰東部だけじゃなくて東アジアという大きな視点で述べられていたのが、とても印象的だったわ。それと、米子城や城下町がつくられていく過程から、日本海に面した流通拠点としての米子の重要性が見えたような気がしたわ。

かるちゃん：戦国時代末期の日本っていう大きな視点からの話だったよね。石見銀山や大山寺、豊臣秀吉なんかの話も出てきたからね。

ジローくん：月山富田城や松江城とも絡んでくる話だったね。ぼくは、城下町の構造についての話が面白かったよ。内堀と外堀の間にあった武家屋敷で今残っているものは、二の丸に移築された「**小原家長屋門**」しかないけれど、以前の発掘調査でいろんなことがわかっているんだよね。

かるちゃん：今回の報告にもあったように、米子城の城下町に関する第33次の発掘調査で、5×4間以上で東と南に庇縁を持つ17世紀前半の大型の礎石建物や井戸などの遺構が発掘され、当時そこには大規模な武家屋敷があったことがわかったんだ。今の西町のマンションのあたりだよ。

ジローくん：あのあたりは、いかにも米子城のおひざ元って感じだね。

かるちゃん：そうだね。この場所は、享保5年（1720）の絵図に「**荒尾主馬**」と記されていて、重臣の屋敷があったことがわかる。これを裏付けるように、屋敷裏手の溝から荒尾家の家紋入りの瓦が発見されているんだ。発掘調査の成果と絵図が一致したということだね！

ミナちゃん：絵図で屋敷割りや居住者がわかるのね。江戸時代版住宅地図って感じ。

かるちゃん：武家屋敷の発掘調査では、食事に使った陶磁器のお茶碗類や箸、調理に使った羽釜や土鍋、すり鉢のほかに櫛やかんざしなどの装身具や羽子板、人形などの玩具、耳かきや下駄などさまざまな生活用具が出てくるんだ。当時の武士の暮らしぶりが生々しく伝わってくるね。

ミナちゃん：目に見える城下町の面影と、地下に眠る城下町の名残があるのね。おもしろそう。ちょっとまた興味がわいてきたわ。

米子城イベント満喫の平成28年でしたが、平成29年もいろいろ企画中です。お見逃しなく！

（米子市教育委員会 文化課）



城下町科研（講演）



城下町科研（パネルディスカッション）



第33次発掘調査（礎石建物）



享保5年（1720）絵図のトレース（部分）